令和5年度 奈良県立高取国際高等学校 学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和5年度（中期計画2年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	地域から学び、地元や国内のみならず、世界で活躍できる人材の育成
年度重点目標	広い視野を持ち、想像力を生かして社会に貢献する。 生涯にわたり学び挑戦し続け、自ら課題を発見・解決する。 思いやりがあり、コミュニケーション力に優れ、協働できる。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	入学者の受け入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の使命や学力が身についており、夢に向かって一生懸命に努力する生徒 2 旺盛な知的好奇心と、主体的に行動する姿勢を併せ持つ生徒 3 人権尊重の精神を持ち、人や自然との共生意識が高い生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	本校では、確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。 1 生徒の進路実現を図るために必要な科目選択が可能なカリキュラムを編成します。 2 実社会を生き抜く強い心と人を大切にするあたたかい心を育みます。 3 規律ある学校生活をとおして、基本的生活習慣と自律的態度を身につけた生徒を育成します。 4 様々な文化を理解する力や、幅広い視野と豊かな人権感覚、他者尊重と社会貢献の精神を涵養します。 5 地域から学び、生徒自らが課題を発見し解決する意欲や能力を育むため、探究的な学びを積極的に取り入れます。 6 学校行事や課外活動、進路対策講座やガイダンス等をとおして視野を広げ、進路を主体的に実現する力を育てます。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	本校では、卒業までに以下の資質・能力の育成を目指します。 1 多様な他者と協働するために必要な資質・能力を備え、より良い社会を形成しようとすることができる。 2 Society5.0の中で、これからも一層変わり続ける世界に対応するために、自ら学び続けることができる。 3 生涯にわたって自らの健康・安全を維持し、自身のキャリア実現をとおして地域社会や国際社会で活躍できる。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和5年度末の目標値等（C）	令和5年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1．こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	体力の向上	新体力テスト得点の向上（平均58点以上）	新体力テスト得点の向上（平均56点以上）	体力合計点で、各学年男女とも全国平均値に5～10点及ばない結果となった。特に、50m走(走力)・ハンドボール投げ(投力)・持久走(全身持久力)での差が大きい。運動習慣の継続と体力向上をより図れるよう啓蒙していく。	課題をいくつか残した。	B	体育実技において、より一層体力向上を図る運動を取り入れるとともに、運動習慣の継続を更に啓蒙していく。
	望ましい生活習慣並びに健康維持の確立	保健室来室者数の減少（年間延べ450回以下）	保健室来室者数の減少（年間延べ480回以下）	季節を問わず、新型コロナウィルス感染症・インフルエンザ等の感染症流行による体調不良を訴える生徒は減少していない。学校生活のみならず、家庭や校外での感染予防対策の意識高揚を更に図っていく。	課題をいくつか残した。	C	「保健だより」・「啓発ポスター」等を通じて、感染予防対策及び規則正しい生活習慣の励行を推進する。
	学校内外における規範意識の向上	「学校のルールを守っている」（90%以上）	「学校のルールを守っている」（85%以上）	学校のルールを守っていると答えた生徒は90%を超えたが、制服の着こなしや身だしなみが乱れている女子生徒は多い。	課題をいくつか残した。	B	規範意識の向上のための注意喚起を教職員全体で徹底していく。
2．学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	ICT教育の推進と質的向上	「授業で効果的にICTを活用されているか」（70%以上）	ICTを活用した授業等を展開している割合80%以上	ICTの活用については概ね達成できているが、電子黒板の活用については今後、活用方法をさらに探っていく必要がある。	課題をいくつか残した。	B	来年度にはすべてのクラスに電子黒板が設置される予定であり、今後ICT教育の推進に向けて創意工夫が進むと思われる。今後も実践例や研修の機会を持って情報の共有をしていく必要がある。
	指導と評価の一体化に向けた工夫改善	「ポイントがわかりやすく学ぶ意欲がわく授業か」（80%以上）	年度末生徒アンケートで「ポイントがわかりやすく学ぶ意欲がわく授業」と回答する割合が75%以上。	昨年度の課題であった「いつ」「どこで」評価するかが明示できた。	概ね目標を達成した。	B	ポイントとともに、継続的に学習することの大切さも生徒に訴えていきたい。
	探究型の課題解決学習の充実	「自分の考えを発表する等を多く取り入れているか」（90%以上）	年度末生徒アンケートで「自分の考えを発表する等を多く取り入れている」と回答する割合が85%以上。	授業参観数は増加したが発表の機会は教科により差がある。	課題をいくつか残した。	B	教科を越えたお互いの授業見学を増やして、探究型授業の研修を深めていきたい。
3．働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップ及びキャリアセミナーへの参加	インターンシップ参加生徒の割合（25%以上）	インターンシップ参加生徒の割合（10%以上）	冬期に希望した生徒が1名いたが、県での抽選で選外となった。	課題を残した。	C	高校の特色づくり推進課によるインターンシップだけでは大人数の参加は見込めない。高大連携校とのアカデミックインターンシップも具体的に参加し有意義な活動となった。来年度も人数増の視野を広げ、積極的な取組を推進したい。
	就職希望者に関する応募前企業見学の充実	希望者各自の応募前企業見学の実施（希望職種3社以上）	希望者各自の応募前企業見学の実施（2社以上）	応募前見学を実施していない事業所以外はすべて参加した。	概ね達成できた。	A	求人票がある程度出そろってから実際に応募先を決めるまでの短期間で3社を見学するというのは現実的ではない。画一的な目標値をかかげるのではなく、個々の生徒の現状に合わせて応募前見学を実施するべきである。
	図書室の利活用を通して様々な分野のキャリア研究	各自の図書室利用回数が週1回以上の者（15%以上）	各自の図書室利用回数が週1回以上の者（10%以上）	年間貸出冊数は1200冊	概ね目標を達成した	B	昨年同様、図書館行事のPR（広報活動）を一層推進する。
4．地域と協働して活躍する人を育てる	地域との協働事業の充実	飛鳥駅前活性化会議開催及び生徒会役員の参加（年3回以上）	地域行事に際と会役員及びボランティア部で年2回以上参加する	飛鳥駅前活性化会議は教員のみの打ち合わせとなった。11月に生徒会、ボランティア部でたかとり城祭に参加。	課題をいくつか残した	A	いくつかの地域行事に参加して、地域の方々と交流を持つことができた。今後も機会を見つけて取り組みを進める。
	国際交流に関する地域並びに協定大学との協働事業拡充	国際交流行事並びに事業開催（年2種別以上）	国際交流行事並びに事業開催（年2種別以上）	フランス姉妹校からの受入れの際、地域との協働ができたが、それ以外の協働事業は行えなかった。	課題をいくつか残した。	A	まず、国際教育に携わるスタッフの充実をしていただくとともに、本校教員の協力体制の強化をはかる。その上で、来年度予定のアメリカ姉妹校からの受入れの際、地域だけでなく協定大学との協働も視野に入れることに加えて、地域を巻き込み本校を会場として開催する国際交流行事が実施できないか模索していく。
	学校運営協議会（CS）の発展的運用	学校運営協議会の内容吟味及び弾力的開催（年5回以上）	学校運営協議会における深い議論と各学期開催（年3回）	昨年度の課題を受けて一つのテーマでの議論は深められた。欠席された委員の共有が今後課題。	概ね目標を達成した	B	校務等のため欠席される委員の共有方法として、学校に移動が難しいレベルであればオンラインでの委員会参加、参加ができない場合は資料及び会議録の郵送で共有を図りたい。
5．地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	多文化共生教育の充実と推進	帰国渡日生の日本語検定昇級（60%以上）	帰国渡日生の日本語検定昇級（60%以上）	7月検定でN1取得1名、他の帰国渡日生徒の12月検定結果待ちである	概ね目標を達成した	B	実質2024年度からの本校の「特別の教育課程」も含め、日本語学習の方途を多面的設計したい。
	地域の特別支援学校及び視覚障害老人福祉施設との交流	「交流を通して意識や態度を高めることができた」（80%以上）	「交流を通して意識や態度を高めることができた」（80%以上）	7月はオンライン交流を実施、12月には訪問し対面交流ができた。	目標を達成した	A	1年生教員の協力も得て生徒が熱心に取り組んだので、次年度もオンライン交流と対面交流の機会を増やし、一層の充実を図りたい。訪問のバス送迎の費用捻出についても検討したい。
	教育相談体制の充実とスクールカウンセラーとの連携	スクールカウンセラーを交えたケース会議（月1回以上）	スクールカウンセラーを交えたケース会議（学期に2回以上）	カウンセリングに係っている生徒が多く、報告書等により情報は共有できている。ケース会議や教育相談支援委員会にも出席してもらった。	目標を達成した	A	スクールカウンセラーとの情報共有は密にできているが、該当生徒の担任等ともっと連携を図りたい。カウンセリングの内容が複雑化かつ深刻化している案件も多く、外部の専門機関との連携もスムーズに行いたい。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

自己評価（E）は、教職員の評価（4点満点）を平均した値をもとに、以下のように区分した。【 「目標を達成した」3.5以上 ／ 「概ね目標を達成した」3.4～3.0 ／ 「課題をいくつか残した」2.9～2.5 ／ 「多くの課題を残した」2.4以下 】

学校関係者評価（F）は自己評価（E）と同様の方法により平均した値をもとに、以下のように区分した。【 「A」3.5以上 ／ 「B」3.4～3.0 ／ 「C」2.9～2.5 ／ 「D」2.4以下 】

来年度に向けて、わかりやすい授業の展開を実践する。特に電子黒板が来年度夏に全クラス設置が完了する。BYODによる学習活動も全学年対象となりどの教科も生徒に主体的で深い学びを実践できるよう授業の工夫、改善が求められている。進路実現をより実現するためにもアカデミックインターンシップの発展を高大連携している教育機関から拡大していきたい。学校運営協議会においても議論を深めた「働き方改革」においては仕事の分担と1日の仕事内容の目標設定やICTを活用した教材研究など時間を少しでも短縮や1日の目処を把握することで超過勤務の軽減を図りたい。